

## 読谷

中学校

戦争を二度と繰り返さぬために

読谷中学校 一年七組 大嶺 沙綾

慰霊の日。それは、私たち沖縄県民にと、

て、戦争の恐ろしさを伝える大切な日である。

一九三九年から四五五年にかけて、第二次世界大戦があった。アメリカやフランス、中国などの連合軍と日本やドイツ、イタリアなど、の軍との戦争である。その戦争が始まった頃には、私のような一般住民に戦争が大きく関わってくると思像した人は、じれだけいたたろうか。

一九四五年三月十日の真夜中、東京の上空に無数の爆撃機が現れた。のちに東京大空襲と言われる空襲だ。敵機の数はなんと約三百機。大量の爆撃機からは、爆弾が降り注ぎ、約十万人が負傷したり、家を失ったりしたという。このような爆撃から子供を守るため、爆撃が少ない遠くへ疎開（避難）させるようになった。疎開先では、食料はそれほど多くはなく、いつも同じようなメニューだった。

いう。それは戦争が終わるまで変わらず、  
 栄養不足による体調不良は多々あったのだと  
 か。国を動かす人々の考え一つでこんなにも  
 多くの人の生命に影響があったのだ。  
 そして同年四月一日には、アメリカ軍が  
 沖縄に上陸し、いわゆる沖縄戦が始まった。  
 日本国内唯一の地上戦である。沖縄県民は、  
 ガマと呼ばれるどうくつなどに避難した。そ  
 の一つであるシムクガマでは、避難していた  
 約千人が助かった。ハワイに行ったことがあ  
 り、英語が話せる二人の男性の説得により降  
 参し、アメリカ軍の民生部隊に保護された。  
 しかし、それとは真逆に、敵に殺されるよ  
 り、家族に殺されたいと集団自決が多発し  
 た。ガマもある。有名なのがチビチリガマだ。  
 このように、同じ沖縄。そして同じ読谷村で  
 も、真逆の結末を迎えることがあったのだ。  
 六月二十三日。沖縄での日本軍司令官がな  
 くなり、組織的な戦争が終わった。しかし、  
 その後も、戦いにより、七くなった人はいた

という。  
 八月六日は広島県に、九日は長崎県に、原  
 子爆弾が投下された。これにより、合わせて  
 三〇万人以上の人々が亡くなり、放射線の影  
 響で後遺症に悩まされる人もまた大勢いると  
 いう。そんな残酷な原子爆弾が投下されたの  
 は世界で唯一、この日本だけだ。  
 この戦争で、日本は、そして沖縄は消えな  
 い傷を負った。令和という元号になつた現在  
 もなお、その影響下で暮らしている私たち沖  
 縄県民だ。敗戦国だから、という言葉では片  
 付かない。一般住民への心身、そして生活す  
 べてにおいて大きな負担がある。  
 このような戦争を繰り返さないために、私  
 たちは、戦争の恐ろしさを知らなければなら  
 ない。忘れてはならない。一人ひとりがそう  
 考えることで、自分の行動や選択によつて、  
 その後何が起きるか、考えることができると  
 ではないだろうか。私は、そう考える。  
 戦争を知らない私たち。だからこそ、私は、

戦争のことを忘れずに生きていきたい。そして、この先、この世界が完全な平和になりことを願う。

そのために、今度は私が知ったことを次の世代に繋げられるよう生きていきたい。戦争を二度と繰り返さぬために。